

「今後の県立高校に関する意見交換会（第2回）」記録要旨【盛岡ブロック】

平成27年11月4日（水）

盛岡第四高校 志高会館

【矢巾町 参加者】

- ・ 再編計画策定までのスケジュールについて、年内に計画案を公表しその後パブリックコメントを実施して、年度内に計画を策定するということであるが、案公表後の地域から意見を聴き検討する時間が短いのではないかと。
- ・ 校舎制を導入した場合の、配置できる教員数の考え方について教えていただきたい。

【県教委】

- ・ 再編計画策定までのスケジュールについては、11月25日まで第3回の地域検討会議を各ブロックで開催し意見を伺う。その後、年内を目途として計画案を公表し、来年1月から2月にかけて計画案について意見を伺う地域検討会議、意見交換会、要望があった地域での説明会を実施した上で、年度内を目途に成案化したいと考えている。タイトなスケジュールではあるが、地域の意見を十分お聴きし検討して参りたい。
- ・ 校舎制を導入した場合の教員定数について、高校標準法に基づいて配置されることになり、小規模校の課題とされる普通教科の教員配置の改善につながると考えている。

【矢巾町 参加者】

- ・ 校舎制の導入では、高校間の時間的距離は30分程度が目安という説明であったが、移動を考えると生徒や教員の負担が大きいのではないかと。また、ブロックによっては導入する考えはあるのか。

【県教委】

- ・ 統合の形態の一つとして校舎制を検討しているが、導入した場合には当初は学校運営等、大変なことはあると思う。拙速にならないように検討していきたい。
- ・ 専門高校が小規模化する中で、高校間の距離がある程度近いところにあるブロックでは、導入の可能性も含め検討しているところ。

【雫石町 参加者】

- ・ 第1回の意見交換会では、小規模校について慎重に検討すると説明があった。盛岡ブロックには雫石高校をはじめ、郡部の高校が小規模校に該当するが、これらの高校について校舎制とする考えなのか。

【県教委】

- ・ 他県では普通高校同士で本校と分校としているところもある。本県で考えている校舎制は、本校と分校とするものではなく、普通高校と専門高校等、様々な組み合わせの中で両校を対等な形で考えているものである。

【雫石町 参加者】

- ・ 再編の基準について、参考資料として前計画の基準が示されている。新たな基準について2学級校の取り扱いはどうなるのか。

【県教委】

- ・ 前計画以降、高校標準法から分校の規定が削除される等状況の変化があり、現在は1学級校も本校としているところである。

（次頁に続く）

- ・ 2学級校の取り扱いについては、意見を伺いながら検討して参りたい。

【盛岡市 参加者】

- ・ 岩手県は県土が広く、地域によって事情が異なる。小規模校の存続のために学校の特色づくりは必要であるが、小規模校にお金をかけることができないというのが現状だと思う。
- ・ 通学できる範囲に高校が無くなると、家庭への経済的な負担が増すことになる。奨学金の利用ということもあるが、結局は借金を背負うことになるのではないか。生徒本人や家庭の努力にも限界がある。
- ・ 学校の魅力を作るために、地域、学校、県教委それぞれが知恵を出し努力する必要がある。県教委としては、小規模校の存続のために地域にどのような努力をしてほしいと考えているのか。

【県教委】

- ・ 小規模校における教育の質の保証について、ある地域からは市町村が雇用した教員が高校で授業をするということができないのかといった意見もあった。本来、県立高校の教員については設置者である県が雇用するものであり、市町村が雇用した教員が授業をするということは、法に抵触するおそれがあり難しい。
- ・ 県教委としては、授業以外の進路や部活動支援への市町村の主体的な取り組みについて、産業界との連携も含め協力していければと考えている。第2回の地域検討会議では、地域と学校が連携した取り組みとして島根県の海士町の例を紹介したが、自治体の財政負担もかなり大きい。
- ・ 奨学金等については、現在、就学支援金による授業料の軽減、就学給付金による支援、いわての希望学び基金による支援を行っているところである。また、岩手育英会の奨学金については、原則無利息である。(延滞の場合には利息が)

【盛岡市 参加者】

- ・ 校舎制の導入に対する積極的な意見は少ないと感じている。再編計画案では校舎制導入の具体案を示すことになるのか。また、前期5年の計画では、再編する具体的な高校を示すことになるのか。

【県教委】

- ・ 再編計画案については、10年先を見通したものとなる。前期5年については、具体的に学級減、学科改編、統合等について個別に示すことになる。また、後期5年については、各ブロックにおける方向性について示すことになる。
- ・ 校舎制について、他のブロックでその導入の可能性について意見交換させていただいており、状況を見ながら計画案に反映させるかどうか検討していきたい。

【滝沢市 参加者】

- ・ 子どもが高校を選択するときに、学区内には学びたい学科が無かったため他のブロックの高校に進学し、下宿生活をした。その高校には、バイクで1時間以上かけて通学していた生徒もいて、近くに寮があれば助かるのではないかと感じた。盛岡ブロックではあまり感じないかもしれないが、寮があれば、他のブロックからでも入学したいと考えるのではないか。
- ・ 大規模な高校を望む保護者もいるが、規模を大きくするために統合等を行うことによって学校が無くなると、地域への影響は大きいと思う。

【県教委】

- ・ 小規模校も魅力づくり等に頑張っているが、少子化の進行の影響は大きく、なかなか定員を満たすことができない状況にある。

(次頁に続く)

- ・ 寮の設置について、例えば種市高校には全国で唯一、潜水士を養成する海洋開発科があり全国から生徒を募集しているが、寮を整備するまでは難しい状況にある。現在下宿で対応しているものの、下宿を経営する方の高齢化が問題となっている。
- ・ 葛巻町では今年度から、町が全面的に支援するという事で山村留学生を受け入れている。こういった地域の支援には感謝しているが、県教委として地域に寮等の整備をお願いすることは難しい。

【県教委】

- ・ かつては、学校や地域の寮が整備されていたが、寮生の減少等により順次寮を閉めてきた経緯がある。盛岡ブロックでは、盛岡第一高校、盛岡商業高校、盛岡工業高校、盛岡農業高校、杜陵高校に寮があり、他ブロックにも数校に寮があるところ。
- ・ 通学支援については、義務教育ではなく公平性の観点から全県的に行うことは難しいと考える。これまでは統合した場合で公共交通機関が無い地域で、バス運行をする場合に県として補助を行っている。統合に伴い公共交通機関による通学が難しいところについては、他県の例も参考としながら奨学金での対応、通学費用の軽減措置等、通学手段の確保を含め何らかの軽減措置を考えているところ。

【盛岡市 参加者】

- ・ これまでPTAの活動に携わってきた。全国高P連では全国の方々と交流し、魅力ある学校には生徒が集まるということが話題となった。
- ・ 増田前知事による地方消滅の反響は大きい。確かにデータが示す通り人口は減っていくし、学校の統廃合は小中学校も行っているが、マイナス思考ではなく、子どもの幸せを考え地域に高校を残すことを大前提としてほしい。学校が無くなれば地域が消滅する。県教委から国に対して様々な要望もしながら、地方が元気になるように取り組んでほしい。

【雫石町 参加者】

- ・ 望ましい学校規模にするために、主に周辺の高校の再編を考えていると思うが、盛岡市内の高校の再編は考えないのか。中学校卒業生数が減少する中で、盛岡市内の高校の定員を減らすことも必要ではないか。
- ・ 盛岡ブロックには私立高校が多い。中学校における進路指導も、仮に一般入試で不合格となっても再募集を行う県立高校を受検させる指導にはなっていない。県教委として、中学校に対する何らかの指導も必要ではないか。
- ・ 私立高校に入学するとなると保護者の経済的負担も大きくなる。私立高校の定員の削減はできないのか。

【県教委】

- ・ 中学校においては、子ども達の進路実現のための指導をしていただいているものと考えている。
- ・ 募集定員について、盛岡ブロックの平成27年3月の中学校卒業生数は4,520人であったのに対し、ブロック内の盛岡市立含む公立高校の定員が3,355人、私立高校が1,565人で合わせて4,920人の募集定員となり実際の中学校卒業予定者より300人以上の差がある。10年後の推計では、盛岡ブロックでも15学級程度の生徒数の減少が想定され、その場合、学級減だけではなく統合を含めた検討が必要となる。
- ・ 私立高校については、各学校法人が運営するものであり各校の経営判断で募集定員を決めているものである。中学校卒業生数の減少を踏まえて県と私学協会とも情報共有している。

(次頁に続く)

【盛岡市 参加者】

- ・子ども達の教育を受けるチャンスを奪ってはいけない。スクールバスや下宿、寮の整備といった意見もあるが、子ども達が学びたい環境で学ぶための方法を考えることが大前提ではないか。公立高校を選ぶか私立高校を選ぶかは、家庭の経済力によっては子どもと親が相談して決めることであり、子ども達の学ぶ環境をどうするかということについて議論の原点であってほしい。行き過ぎた議論は望ましくない。
- ・両磐ブロックの第1回意見交換会では、花泉地区の子ども達が花泉高校に入学するように中高一貫教育校にしてはどうかという意見もあったようだが、その地元の生徒が地元の高校にしか進学できないというのは、子ども達の選択の幅を狭めることになり反対である。

【盛岡市 参加者】

- ・校舎制について、全国的な動向が知りたい。
- ・魅力ある学校づくりに関連して、地域と連携したキャリア教育は小中学校では活発であるが、高校におけるキャリア教育に県教委として力を入れていく考えはあるのか。

【県教委】

- ・全国的には、本県で考えるような学校間に上下関係がない形態のものはそれほど多くはない。他県では校舎制導入により志願者が増えた例もあり、それらも参考にしながら検討していきたい。

【県教委】

- ・小中学校におけるキャリア教育の取組が目立ってはいるが、高校においても県立高校全日制の80%がインターンシップを行っている。現状に満足することなく、さらに質を高める取り組みを進めて参りたい。

【雫石町 参加者】

- ・地元の雫石高校では、希望する生徒が1食150円で補食給食を摂ることができるが、家庭の経済状況からそれも難しい生徒がいると聞く。雫石高校が無くなることで、高校進学のお機会が無くなる生徒が出てくるのが心配される。
- ・中高一貫教育校について、葛巻町や軽米町で導入しているが、雫石町には提示したことがあるのか。地域の理解が得られれば、導入の可能性はあるのか。

【県教委】

- ・軽米町と葛巻町については、町からの要請等もあり10年以上前から連携型の中高一貫教育校として導入しているところ。高校の教員が中学校で授業をしたり、中高それぞれの教員が研究授業を行う等の取組がある。
また、地元中学校からの入学割合は7から8割となっている。しかし、少子化が進む中で、それぞれの高校においても学校規模が小さくなっている現状がある。
- ・雫石中学校から雫石高校への進学割合は3分の1程度となっている。中高でどのような連携をしていくのかについては、町の意向を伺った上で町と意見交換をさせていただきたい。

【岩手町 参加者】

- ・学校の魅力づくりの一つとして、優秀な教員を配置していただけないかということも考えている。説明の中では、寮の整備は難しいが地域と連携した下宿等の話もあった。様々な情報を地域に発信することで、地元として協力できることも検討できるのではないかと。(次頁に続く)

【矢巾町 参加者】

- ・ 統廃合の基準について、再編計画案と一緒に示すのか。
- ・ 前計画では、基準に抵触した場合に翌年度から廃校あるいは分校化ということで進めていた。定員に満たないからすぐに再編するのではなく、地域の意見を聴いて対応するような猶予期間を設けていただきたい。その上で、市町村が支援等厳しいということであれば、再編もやむを得ないと思う。
- ・ どこであっても同じ教育が受けられることが基本だと考える。統廃合が進むことで、家庭への経済的負担は大きくなると思う。就学支援金や就学給付金もあるが、実際にはそれでも経済的に厳しい家庭が見られる。可能な範囲で自治体と連携した支援対策を検討していただきたい。
- ・ 魅力ある学校づくりは大切である。地域に学校が無くなると地域が衰退する。地域の想いを大切に、可能な限りバックアップしていただきたい。

【県教委】

- ・ 統廃合の基準については、再編計画案の中で示していきたい。
- ・ 他ブロックでも猶予期間を設けてはどうかという意見もあり、様々な意見を伺いながら検討したい。

【県教委】

- ・ 統一した基準も必要であるが、地域が違えば意見も違ってくる。分かりやすいルールの設定とともに、地域の状況を勘案したルールの設定が必要という意見もある。
- ・ 再編計画案を公表した後にも、パブリックコメントや説明会を開催し意見を伺って参りたい。